

令和7年度 第2回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和7年9月11日（木）13時30分～15時00分

四国森林管理局 局議室（WEB）

2 議題

- （1）管内における木材需給、価格動向等について
- （2）各分野における現状や今後の見通しについて
- （3）意見交換
- （4）その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

住宅着工戸数は、建築基準法改正前の駆け込み需要の反動で、4月の四国の木造住宅着工戸数は大きく減少し、その後落ち着きを取り戻しつつも、本年7月末の着工戸数は昨年同期比を下回っている状況であり、今後の動向について引き続き注視が必要である。

このような中、国産材製品は、一定の引き合いは見られる状況。原木の需給については、出材が少なく不足感があり、スギ・ヒノキともに引き合いが続いており、現状価格は総じて昨年よりも高い水準で推移している。今後、伐り旬を迎え、原木の生産が本格化してくるが、不足感が解消されるかについては、先行き不透明である。

以上の状況を踏まえ、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努める。引き続き製材品の需要動向や民有林材の出材状況を見極めつつ、地域の実情に即した供給調整の要否を検討していくこととする。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 林業の担い手が増加しない中、再生林もあることから原木生産量の拡大が厳しい状況。
- ・ 人員不足は深刻であり、今後の事業進行に不安を感じる。
- ・ 本年度の原木生産量は、天候不良など要因がなければ前年度並みの見込み。
- ・ 猛暑による熱中症を考慮して、皆伐作業地を休止して間伐作業地への転換がある。
- ・ スギ材の引き合いが鈍く、ヒノキ材の出材を多くしている。

○ 原木市場・共販所等

- ・ 原木入荷量は、昨年度と比べ少なく、不足感があることから、買い気強いわけではないが、スギ・ヒノキとも全品目引き合いはあり横ばいで推移。
- ・ 今後も原木不足から単価の上向きはありそうに思うが、大幅な値上りとはならな

いと思われる。製品市況は良くないが、原木価格は現状のまま推移すると思われる。

○ 製材工場等

- ・ 不足感から原木価格は上昇気味。製品価格は変わっていない。間柱・胴縁の売れ行きは良くない。先行きは不透明。木材価格と大工の賃金は上がっていない。
- ・ ヒノキの原木は順調に調達できている。4～6月と比べれば製品の注文は減少し、価格は横ばい。
- ・ 8月の生産は計画通りで、製品在庫を確保できた。生産は引続き計画通りに生産し、製品にして在庫を確保していきたい。
- ・ 製材の稼働は良くないし、丸太の出材も少ない。
- ・ 住宅着工の減少、物価上昇で製品出荷は鈍いが、価格の下げはそれほどでもない。